こどもまんなか
みんなのいばしょ

発行／長崎県　長崎県青少年育成県民会議
長崎県青少年育成県民会議事務局　長崎市桜町 4-1 長崎商工会館 9 階　TEL. 095-824-7510

こどもの居場所づくり

事例集
2025

ほっとしたり
ワクワクできる
ぼくのわたしの
こども場所

長崎県

ごあいさつ

「こどもの居場所づくり」については、令和５年、国において「こどもの居場所づくりに関する指針」が策定され、こどもの主体性や創造力を発揮させるためには、安全で安心に過ごせる居場所や様々な学び、体験、外遊びの機会が必要と示されるなど、こどもの居場所や体験の重要性が一層高まっています。

本県では、これまでも、地域の課題や特性に応じ、地域団体やＮＰＯ等、企業の皆様などにより、自発的に取り組んでいただいているところですが、県では、こどもの居場所や様々な体験の提供を「こども場所」と位置づけ、こどもたちの身近にあふれる環境を目指し、今年度より、こどもの居場所づくりに取り組む方に対する相談窓口の設置や、居場所の立ち上げやモデルとなる体験の提供への補助を行っています。

今回、これから「こども場所」に取り組む方や、活動を広げようと考えている方に、多くの好事例を紹介し、参考にしていただきたいと考え、「こどもの居場所づくり事例集」を、昨年度に引き続き作成しました。

事例集では、多世代交流の場やこども食堂、フリースクール・学習支援、こどものあそび、といったこどもの居場所のほか、様々な体験の提供について、学校や企業、関係団体等と協力しながら取り組んでいる皆さんをご紹介しています。

本事例集を通じ、それぞれに創意工夫を凝らした地域ならではのこども場所が生まれ、活動が継続していくことを願っています。

結びに、本事例集の作成にあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

令和８年３月

長崎県福祉保健部 こども政策局こども未来課長

contents

ごあいさつ …… 01

居場所づくり事例

長崎シビックホール（長崎市） …… 03

Kidscafé笑舞（長崎市） …… 05

フリースクールアリビオ（長崎市） …… 07

島原子ども食堂 みんなこんね カフェ&キッチン（島原市） …… 09

めだかの学校（諫早市） …… 11

轟のきずな（トトロのきずな）（諫早市） …… 13

みんなの居場所 ぐるんぱ（大村市） …… 15

こどもの声 …… 17

長崎県の「こども場所」づくり充実に向けた取り組み …… 21

区分について

居場所の活動をわかりやすくお伝えするために、9つの区分で表記しています。

※各団体の内容は、2026年３月時点の内容です。

アイコン説明				
名称	開催場所	利用日時	利用料	対象
申し込み	実施団体	問合せ先	メール	開催予定
その他	ホームページ			

01

長崎シビックホール

赤ちゃんから高齢者まで“ごちゃまぜ”が育む子どもの未来

長崎シビックホール
長崎市常盤町1-1
毎週火曜日～日曜日　10:00～15:00
無料
赤ちゃんから高齢者まで（誰でも）
ホームページから
NPO法人インフィーニティー
095-822-8161　civichall8@kvd.biglobe.ne.jp
https://civichall.ne.jp/

こども食堂　イベント　多世代交流　遊び体験
子育て支援　フリースペース　あそび場

現在の活動を実践するに至ったきっかけとその中で感じていること

幼児教育に携わっていた1980年代バブル期。社会の著しい変化と同時に、子どもたちの「遊び」にも影響が及び、仲間と同じ空間で過ごす時間が少なくなってきました。いわゆる「三間の喪失」。それは後のパーソナリティ形成に影響を及ぼし、将来、心の病として現れるのでないかと危機感を抱いていました。1997年、少年が殺傷する事件が発生。その後次々と続く17歳事件。自分たちにできることは何かと専門家でチームを組み「子どもを取り巻く環境づくり」を目的に2003年NPO法人を設立しました。その矢先、身近な所で少年の殺傷事件が起き、その無念さから子どもの居場所づくりとして、2005年に小学校内で放課後子ども教室とプレーパークをスタートしました。翌年、外資系の保険会社から社会貢献（CSR）の場の委託を受け、「長崎シビックホール」を運営しています。20年経つと役割が変わります。助けてもらっていた人が、助ける側に立っています。

活動のアピールポイント

活動の場である「長崎シビックホール」は、赤ちゃんから高齢者（ボランティアスタッフ）まで集う、ごちゃまぜの空間です。あえて、このごちゃまぜの中で、年に２回、こどもがまちをつくるという「ごっこ遊び」を展開しています。社会を疑似体験できる「こどものまち」では、大きく分けて市役所、銀行、税務署、ハローワーク、病院等まちを支える公的なものと、雑貨屋やカフェなど賑わいや楽しみを生み出すものがあります。「まちをつくる」という共通のテーマで、学校も学年も違う子どもたち（小学５年生から中学生）が毎週日曜日の午後に「こどもスタッフ」として集い、まちのルールやデザイン、準備、どうすれば市民が楽しめるかを考えるのです。「ごっこ遊び」なので失敗してもやり直せば良いし、勿論ルールを変えても良いのです。ありたい姿を演じることもできます。主にサポートするのは子どもスタッフを卒業した高校生や大学生で、子どもたちのロールモデルや相談相手にもなっています。まちづくりに協力する企業の方々など大人もいますが口出しはしません。但し、助けを求められたら助けます。

活動する中での子どもや保護者の声

学校に行き渋っていた子どもの保護者の方から、「子どもと一緒に苦しみ、出口が見えなかったけど、友達に誘われて子どもスタッフになり、関わる度に元気になっていくことの喜びだけでなく、人の世話をしている姿を見て嬉しかった」という内容のお手紙を頂きました。

スタッフをしている子どもたちに「あなたにとってここ（シビックホール）はどんな場所?」と質問してみました。「あんなこといいな。できたらいいな。を叶えてくれる場所」「家族じゃないけど、家族のような感じ」「ありのままの自分でいられる」「何かあったら守ってくれるお守りのような場所」など嬉しい言葉を頂きました。

活動していくうえでの課題、今後の展開

これまで、不登校、発達障害、いじめ、自死、非行など子どもたちの様々な問題に触れてきました。子どもの数は減り、これらの問題に対する対策が様々に行われ、制度や支援策も充実してきたにもかかわらず、こうした問題は減るどころか増えています。「なぜ?」この課題の解決策として、我々よりも優れた未来の担い手となる子どもたちが自分事として考える機会とチャレンジできるチャンスが必要と考え、中学生、高校生、大学生が積極的に社会参画できる次のステップ、「ユースタウン」を展開致します。

02

Kidscafé 笑舞

笑い声が風に舞う やさしいこども食堂

Kidscafé笑舞（キッズカフェ しょーぶ）
長崎市高浜町3963-3（高浜アイランド）
不定期開催
子ども／無料　大人／300円～500円
幼児～高校生（大人もOK）
不要
有限会社匠舞環境
095-894-2332　shoubu0909@outlook.jp

@SHOBKANKYOU

こども食堂　あそび場

たくさんの子どもたちの笑顔が舞う居場所であるよう願いをこめて

長崎市最南端の野母崎地区は小学1年生から中学3年生までが同じ学校に在籍する小中一貫校。みんながみんなのお顔もお名前も知ってる地域だからこそこども食堂=貧困のイメージを持たないように、Kidscafé笑舞と名付け、たくさんの笑顔が舞う居場所であるよう願いを込めて立ち上げました。

この活動を実践するに至ったきっかけ

「生まれ育った野母崎の時間を記憶から消したい、、、」と話す少女との出会いでした。
幼少期からアダルトチルドレンとして生きてきた少女の心に触れたとき、私自身もシングルマザーで子育てし生活するために仕事に追われ犠牲にしてきた我が子との時間、、、手作りする時間や気力がなくて胸が痛みながらも食卓に並べたコンビニのお弁当、、、生活が落ち着いたころには親の手から巣立つ時期となった我が子へ「ごめんね」と「寂しさ」が溢れたことを思い出しました。生まれ育った故郷を忘れたいと思う子どもたちを増やしてはいけない。この思いでこども食堂の活動をはじめました。

Kidscafé 笑舞　地域外からの参加も大歓迎

おそらく、、、世界遺産を一望しながら過ごせるこども食堂は全国初？？かも！！
「おなかいっぱい食べて」「おなかかかえて百笑い」大人も子どもも「走り回って遊ぶ」野母崎の大自然に心を解き放ち自然体で流れる時間がここにあります。
現在開催場所が、高浜アイランドをお借りして野母崎エリアのみの開催ですが、野母崎っ子以外の参加やお問合せも増えています。いろんな地域の子どもたちが楽しそうにお喋りしたり、一緒にご飯を食べたり遊んだり子どもたちの居場所、交流の場として子どもたちが楽しみにしてくれる Kidscafé です。
また、食事だけでなくワークショップやドッジボール大会など子どもたちが楽しめるイベントも同時開催しています。

小さな１歩が心の富へとカタチをかえて

こんな私にできるだろうか、、、子どもたち来てくれるかな、、、私の自己満なのかな、、、こんな不安だらけの1歩をふみだした Kidscafé笑舞も回を重ねるごとに「何かできることない?」「次回、お手伝いしたいから日時教えて」「子どもたちに食べさせて」地域の方々、子どもたちの親御さんからもたくさんの真心を寄せていただくようになりました。また、子どもたちからも顔を合わせるたびに「おばちゃーん今度〇〇食べたい!」や「今度みんなで〇〇して遊ぼー」などワクワクする要望がたくさん寄せられています。私の活動する母体は野母崎の小さな地元企業であるため日々の事業活動との調整で実施できる回数は少ないのですが、開催日程が決まると取引先企業さまからもご支援のお声かけをいただけるようになりました。子どもたちへの支援の輪が広がりたくさんの人の温かさに触れることで感じる心の富を大切に感謝の想いで子どもたちへ繋いでいこうと思っています。

企業母体だからこそ目指す展開

廃棄物処理を扱う業種だからこそ出会ういろんな「もったいない」。
不要な人から必要な人へ繋げることで役立てる支援の新たな仕組み作りをすることで取り組める SDGsに挑戦していきます。

フリースクールアリビオ
長崎市大井手町45番地上戸ビル301
月～金曜日　10:00～15:00
週３回以上コース　30,000／月
週２回以下コース　22,000／月
小学生～高校生　電話・メール
フリースクールアリビオ
090-8762-9213　masahiro520310@gmail.com
https://industrious-lion-wjdgrm.mystrikingly.com/
見学・体験は無料

学習支援　フリースクール　子育て支援

現在の活動を実践するに至ったきっかけとその中で感じていること

長崎市立中学校で30年以上勤務するなかで、別室登校の生徒との関わりが多くありました。別室では漢字や英単語などの書き取りや読書などが中心となります。学習も計画的には進められず、学習支援もないため全日制の高校に進学することが非常に困難な状況にありました。しかし、そのような子どもたちの中には、「中学校は行けなかったけど、高校では毎日楽しく通って生活したい。全日制に行きたい」という希望を持っている子がいることがわかりました。私立公立問わず、当日の入試の点数だけで合否が決められるものではありません。そこには調査書、いわゆる「評価」「評定」が不可欠となります。

別室登校の生徒は別室で学んで頑張っても、それが評価に反映されることはまずありません。定期テストだけ受けても同様です。その結果、全日制高校への進学を難しくしていました。近年、高等学校は多様化し、通信制高校も充実しているので、是が非でも全日制高校に入らないといけないわけではありません。しかし、それを希望したとしても非常に不利な状況で受験しなくてはいけないために断念する、親や先生に進学の希望すら言えない子どももいたのも事実です。文科省は令和元年に、「学校外施設」への参加を「出席扱い」にしてよいという通知を出しました。あわせて、欠席中に自宅や別室で行った学習の成果を学校が評価するよう求めました。しかしながら、通知が出されて以降、「出席扱い」にする取り組みは徐々に広がっていますが、学校外施設等で行う学習が評価・評定に反映されることはほとんどありません。文科省は学校が主体となって学校外施設と連携し、評価の材料を収集、評価するよう求めています。しかし、学校の現状を考えると実現は極めて困難な状況です。そこで、学校と積極的に連携して学習教材を共有化したり、学習成果を定期的に学校に提供するような施設があったら、学校は評価もできるし、子どもたちも全日制高校への進学を望めば挑戦できると考えました。その方法を自分なり考え、実践するために、早期退職して令和5年に「フリースクールアリビオ」を設立しました。現在、3年目になりますが、アリビオの卒業生は、全日制の公立、私立高校、登校型の通信制高校等に進学しています。その中で全日制の高校に進学した子については、学校と密に連携して教材のやりとりや定期テストの実施等も行い、学校にほとんどの教科で個人内評価も含みますが、5段階の評定をつけていただいています。

最近思うことは、発達上の課題を抱えていたり、特別支援学級に在籍する子どもたちが不登校になった場合、受け入れる学校外施設が極めて少ないことを感じています。

アリビオでは、「すべての子どもは同じ大切な子ども」と考えているので、特別な支援が必要な子どもたちも入校しています。行く施設がない場合、家に閉じこもりっきりになる可能性が高くなるので、多くの学校外施設が積極的に受け入れるべきだと思っています。

活動のアピールポイント

開校後、アリビオには中学生から高校生までの子どもたちが利用し、心理的支援・学習支援・対人関係支援の３本柱で個別のニーズに対応した支援を行っています。

「ここがあると思うと安心して学校に行ける」という子がいること、学校では難しい個別支援が、少人数だからこそ丁寧にできること、子どもたちの小さな成長が自信へつながることなどを実感しており、アリビオが子どもたちの“安心して立ち止まれる場所”として機能していることに意義を感じています。

アリビオの最大の魅力は、子どもたちが「安心して過ごせる居場所」であることです。アリビオはスペイン語で「安心・ほっとする」という意味をもち、その名のとおり、緑を基調とした落ち着いた空間づくりや少人数制の環境を整え、心理的安定と自己肯定感の回復を大切にしています。また、公立中学校で30年以上の経験を積み、生徒指導や教育相談を専門としてきた代表・大石真弘が、一人ひとりの特性や状況に応じた支援を実施しており、その専門性は大きな強みです。

活動していくうえでの課題、今後の展開

保護者や子どもたちの間で不登校や進路に関する「誤った情報」が広がっていることに課題を感じています。例えば、「授業を受けていないから評定はつかない」、「出席日数が足りなければ進級できない」など、実際とは異なる情報を信じて悩む家庭が多く、正しい制度理解を伝える必要性があります。これは、継続的な情報発信の強化という課題につながっています。不登校やいじめへの理解を深めるため、アリビオでは講演活動やSNSでの発信も継続しています。今後は、不登校支援の正しい知識の普及、学校外での学びへの社会的理解向上を目指して情報発信を強化し、地域全体の子ども支援の底上げを図っていきたいと考えています。

04

島原子ども食堂 みんなこんね カフェ&キッチン

季節の香りと笑顔が集まる
あたたかい食の居場所

島原子ども食堂 みんなこんね カフェ＆キッチン
古民家（島原市湖南町7646）
白山公民館（島原市西八幡町7657）
杉谷公民館（島原市宇土町乙687-1）
月１～２回　第１・２・３ 土曜または日曜
子ども（高校生まで）／無料　大人／200円
乳幼児～高齢者　担当あて電話、ショートメール
島原子ども食堂 みんなこんね
090-8833-4612　orangeharuko9@gmail.com
島原新聞寄稿
ながさき子ども食堂ネットワーク　Facebook掲載

こども食堂　多世代交流　子育て支援　あそび場

大根ステーキもある
クリスマスメニュー
ケーキも手作り

子ども食堂キッズキッチンのはじまり

令和２年春、コロナ蔓延で一緒に作ったり、一緒に食べることがままならない時期に母子寡婦福祉会の子どもたちに「食」の知識習得や一緒に「食事づくり」を行うため、一軒家の実家を使って「少人数」「短時間調理」「テイクアウトメニュー」を考え、畳の多い実家で各部屋にカセットコンロやビニールシートを敷き実践型子ども食堂として始めました。

調理担当は私も会員である地域の食改（食生活改善推進員）さんで料理が大好き、教えあうことも大好きな方の集まりでしたが、半数はスタッフでの開催となりました。

古民家の四季

令和3年、新たに一軒家の母子寡婦福祉会事務所台所をクラウドファンディングで改修、オーブンや冷蔵庫などを揃え、ちょっと広めの家庭の台所で開催できるようになり、子どもたちにとって食材を目の前にしてご飯の炊けるにおいや人数分の料理を配膳する、まるで三世代の家族の食事の支度といった風景が展開できるようになりました。

特に地域の農家さんや支援者からの農産物は古民家大家さんの育てる四季の花、柑橘類といつも古民家で開催する子ども食堂の風物詩となっています。

子どもたちの楽しそうな顔、声

当初は生活困窮の子どもたちや保護者を対象として募集していましたが、子どもたちから友達を誘いたいとの声や、日本語学校の生徒や高校生の参加（ボランティア）も始まり、6年目の子ども食堂は、乳幼児から高齢者まで40名ほどの参加があります。現在は、開催場所も増やして、公民館２か所をお借りして実施しています。

毎月の季節ごとのメニューは、開催当初より米支援があったため「和食」「地元野菜」が中心となっています。調理室に入るのは小学校高学年から高校生で、巻きずし、イワシの手開きなど、家庭ではなかなか作らないメニューもあり、経験のある中学生が高校生に教えるなど年齢に関係なく真剣にチャレンジしています。また、普賢岳を望む火山灰の降った大地での大根収穫体験や島原湧水で作成した「かんざらし」試食はしっかり郷土の食材としてお腹と心に刻んでいます。

多世代、地域の方々との交流

毎年１月、地域の77歳（喜寿）88歳（米寿）の方を招待し、正月のお祝い膳を作成します。おせち料理で種類も多く、調理も大変です。年祝いの説明は母子寡婦福祉会会長、また「折り鶴」は子どもも高齢者の方々も一緒に作り、子どもたちとお年寄の方々が「犬」「猫」などの折り方を教え合う姿は「居場所」「交流」の場として貴重です。

また６月と７月には日本語学校生徒が浴衣を着せてもらいあじさいの花の前で嬉しそうにポーズするなど「食」をとおした国際交流も広がります。

持続可能な活動への取り組み

フードバンクさんからの食材や、農業が盛んな地域から新鮮で大量に頂いた野菜をどう献立にするかは食改さんの醍醐味です。また、防災用の食材なども頂き、日々の食卓での活用方法や毎月の献立を食事をとりながら一緒に考えるなど、今後とも「食」の知識を学ぶ体験型子ども食堂として展開し、子どもだけではなく地域の方々に「居場所」のPR、参加を広めていきたいと思います。

05

めだかの学校

地域と子どもが
ゆるやかに繋がる場所

めだかの学校
諫早市堂崎町10-5イベントハウス「めだか」他
毎週金曜日（放課後クラブ）
イベントは２月に１回程度
1,500円／年（放課後クラブ）、イベントは200円
小学生　SNS、電話
グループめだか
090-6565-9759　minekiyo1948@docomo.ne.jp

イベント　多世代交流　遊び体験　フリースペース　あそび場

活動のスタート

県内最大規模の団地で開発から50年が経ち、地域の高齢化が進む中、高齢者が気軽に集まれる場所として「地域の寄合いどころ めだか」を立ち上げました。その活動が地域に定着した頃、子ども会の消滅や活動の低調化について耳にするようになり、子どもを対象としたイベント（フラワーアレンジメント、ハロウィン、クリスマス等）開催を開始しました。当初は２月に１回程度のイベント開催のみでしたが、共働き家庭が多く、放課後の子どもたちの居場所を求める声が多かったことから、少しでも子どもたちの健全育成に貢献したいとの思いで、めだかの学校「放課後クラブ」（毎週金曜日）を開所しました。イベントは毎回 20～25名程度を募集し実施しており、放課後クラブは定員10名で年間を通して固定メンバーで実施しています。小学校全体で約120名の小規模校であることもあり、めだかの学校「放課後クラブ」は地域の活動として理解･協力を得ながら継続しています。

地域に根差した活動

活動予定は毎月発行の「めだかニュース」に掲載し、近隣９自治会を通じて回覧してもらうことで、地域に広く周知されています。スタッフは民生委員、民生委員経験者、自治会役員などボランティア活動に理解のある８名で構成され、高齢者対象の活動も含め月に10回程度の活動を分担して実施しています。スタッフ自身が楽しみながら活動している点も、本活動の特徴です。また、イベントでは近くの鎮西学院大学の学生にも協力をいただいており、学生との交流は子どもたちにとって楽しみの一つになっています。大学側からも、ボランティア活動の機会を提供できることに感謝の声をいただいています。

めだかの学校「放課後クラブ」

毎週金曜日の夕方になると学校の授業を終えた子どもたちが集まり、宿題をしたり、折り紙やボードゲームで遊んだりと思い思いに過ごすことができる居場所です。めだかで地域の人と顔見知りになりのびのびと過ごしてほしい。そして、学校や家庭で話しづらいことも気軽に言えるもう一つの居場所にしてくれたらと願っています。小学校卒業まで継続して参加する子どもも多く、自己中心的だった子が他者を思いやれるようになるなど、色々な面で子どもたちの成長を感じられることが、スタッフの大きなやりがいとなっています。また、保護者からは、「金曜日はめだかに行っているので安心できる」「下級生や上級生と遊ぶ機会が少ないのでありがたい」「貴重な経験をさせてもらい感謝している」等の感謝の声も励みになっています。

大切にしている季節毎のイベント

ハロウィンイベントでは、地域の家庭に協力していただき、日が暮れる頃に門柱にろうそくを灯してもらいます。子どもたちは４～５人のグループで灯りを探して、ワイワイと興奮気味に、「トリック オア トリート!」と元気な声を響かせながら、お菓子をいただきます。子どもと地域住民が自然に交流できる行事です。母の日のフラワーアレンジメントでは、諫早市飯盛町の花農家から花を購入し、子どもたちが思い思いに生けた花を持ち帰り、日頃の感謝を込めて母親にプレゼントしています。クリスマスイベントでは、ケーキ作りやリース作り、ツリー作りなどを行い、子どもたちとスタッフが一緒に楽しんでいます。

今後の課題

スタッフが高齢になり、今後の活動を担う後継者がなかなか見つからないことが課題です。また、「ふるさと歴史散歩」「市役所･市議会見学」「パン焼き体験」「スポゴミ」等アイデアを出し合い実施してきたイベントもマンネリ化し、企画の固定化が悩みです。課題はあるものの今後もできる限り「子ども」「高齢者」双方を対象とした地域の多世代交流の場づくりの活動を継続していきたいと思っています。

06

轟のきずな（トトロのきずな）

“未来への種まき”

こどもと地域とあなたと共に

轟のきずな（トトロのきずな）

諫早市内

（国立諫早青少年自然の家、諫早市こどもの城など）

土日や長期休み　500円～2,000円程度

諫早市内の小学４年生～小学６年生（イベント内容により変更）

小学校を通じて配布されるチラシや安心メールで配信されるチラシの申込QRコードより

とと・で・りんぐ　totoro.enjoy10106@gmail.com

Instagram　totoro.enjoy（とと・で・りんぐ）

イベント　遊び体験　子育て支援　あそび場

@TOTORO.ENJOY

とと・で・りんぐ

体験と居場所に種を植える

私の活動の原点は、こどもの城でのボランティア活動や通学合宿へのかかわりです。その時から、私は、子どもから「トトロ」と呼ばれるようになりました。今では、ボランティア活動名になっています。子どもたちと時間を共にする中で、自信のなかった子が仲間と協力することで表情を変えていく姿を何度も目にし「体験には人を育てる力がある」と強く実感しました。その思いを形にするために、「未来への種まき」という理念のもと「とと・で・りんぐ」を立ち上げました。「とと・で・りんぐ」とは学校の垣根を越えて、主に小学校高学年から中学生を対象とした、体験活動を提供している団体です。国立諫早青少年自然の家や諫早市こどもの城の協力を得ながら、【轟のきずな（トトロのきずな）】というイベント名の元、自然体験や親子交流プログラムなどを実施し、子どもが挑戦し成長できる環境を地域の中につくることを目指して活動しています。

活動を広げていく中で、SNSでこども食堂の取り組みを目にし、食を通して地域がつながる姿に心を動かされました。体験という非日常の場だけでなく、日常の中にも安心できる居場所が必要ではないかと感じ、地域への恩返しの思いも込めて、とどろきこども食堂を立ち上げました。常設の拠点を持たないからこそ地域のさまざまな場所へ出向いて開催する形をとり、食事提供に加えて交流や体験の機会も届けています。

活動を通して強く感じているのは、子どもは環境と関わり方次第で大きく変わるということです。そして、大学生であっても本気で動けば地域は応えてくれるということも実感しています。子どもの未来に種をまく存在であり続けるために、これからも挑戦の場と安心できる居場所の両方を地域に育てていきたいと考えています。

この場所が選ばれる理由

アピールポイントは、単なる体験提供や食事支援ではなく、子ども・大学生・地域住民・企業をゆるやかにつなぐ“関係づくり”を実践している点にあります。大学生が中心となりながらも一人で完結するのではなく、地域の施設や団体、企業と協力し、多様な世代が関わる仕組みをつくっています。活動を通して、子どもは参加者であると同時に将来の担い手となり、大学生は支援する側でありながら学び成長する存在となり、地域は支える側であると同時に支えられる側にもなるという相互作用が生まれています。単発のイベントにとどまらず、人と人との関係が継続していく土台をつくっていることが本活動の大きな強みです。皆さんも「トトロ」に会いに来てください!

トトロに届いた声

子どもからは「また参加したい」「次はいつあるの?」といった声が多く聞かれ、最初は緊張していた子が回を重ねるごとに自分から話しかけてくれるようになったり、役割を進んで引き受けたりする姿を見るたびに、環境が人を育てることを実感しています。「こども食堂に行く」というよりも「トトロに会いに行く」と言って来てくれる子どもも少なくありません。場所や企画そのもの以上に、人とのつながりを求めて足を運んでくれていることに大きな責任とやりがいを感じています。また、保護者からは「安心して参加させられる」「ここに来ると子どもが本当に楽しそう」「家ではできない体験をさせてもらえてありがたい」といった声をいただき、「一人で抱え込まなくていいと思えた」と話してくださる方もおり、活動は子どもだけでなく保護者にとっても心の支えとなる場になっています。

次にまく種とこれからの挑戦

活動を継続していくうえで、資金面や担い手の確保といった課題はありますが、私は常に自分がワクワクする方向へ進むことを大切にしています。巡回型として地域に届けるこども食堂を続けながら、将来的には固定化できる居場所づくりも考えています。昔の地域の温かさと現代の多様性や自由さを掛け合わせた、新しい居場所をつくりたいと思っています。縁側のように自然と人が集まりながらも、子どもが挑戦できる体験や学びがある空間を目指しています。まだまだ頭の中にはやりたいことがたくさんあり、体験活動やこども食堂を軸にしながら、これからもさまざまな展開に挑戦していきたいと考えています。

とどろきこども食堂

偶数月と長期休み期間に諫早市の高来西ゆめ会館、高来ふれあい会館などで「とどろきこども食堂実行委員会」によるこども食堂を開催しています。

利用料：中学生以下は100円以下のワンコイン（おもちゃでも可能）大人は300円

申込不要（お弁当配付、クッキングは Instagram から要予約）詳しくは▶

@TODOROKI.CC55

07

みんなの居場所 ぐるんぱ

ゆるやかに
つながり合う
まちの子育て基地

- みんなの居場所　ぐるんぱ
- 大村市東本町2-3福谷ビルA202
- 週に1日（月または木曜）　13:00～17:00
- 子ども／無料　大人／200円（ワンドリンク込）
- 主に小中学生とその保護者
- 不要（ワークショップとcaféぐるんぱは要予約）
- 子育てサロンぐるんぱ
- Instagram @grunpa.babymassage

©GRUNPA.BABYMASSAGE

イベント　多世代交流　遊び体験　子育て支援　フリースペース　あそび場

「ここは、なにをしても、しなくてもいいばしょ。
おいしいおやつと、あそべるものをよういしています。
しゅくだいもいっしょにできます。
よりみちしたくなったら、いつでもきてください。
すきなときにきてください。まっています。」

これは、みんなの居場所ぐるんぱのチラシに掲載している子どもたちへのメッセージです。毎日いろいろなことがある中で、家庭と学校 2 か所だけを行き来していては晴らせない心のモヤモヤや、誰にでもあるちょっと寄り道したくなるそんな気持ちを受け止めたい。そんな思いでこの場所を運営しています。

現在の活動を実践するに至ったきっかけとその中で感じていること

子育てサロンぐるんぱ・みんなの居場所ぐるんぱの名前の由来は、絵本「ぐるんぱのようちえん」の主人公である、ぞうのぐるんぱです。自分にできることを探して、失敗しながらもいろいろなことに挑戦して、最後にはその経験の全部をつめ込んで、自分にしかできないこと、そして自分だけの居場所を見つけていく物語。お母さんになり、子育てをしながら自分に出来ることは何なのかを探していた当時の自分にとって「ぴったりの名前だ!」と嬉しくなったことを今でもよく憶えています。これまで10年以上ベビーマッサージ教室や保護者のおはなし会、夏休みの居場所作りなど様々な活動をしてきた中で「子育て中はいろいろなことがあるけれど、大人も子どももみんなで集まれば楽しいし、なんとかなる!」と感じています。この居場所では、大人も子どもも関係なく、おしゃべりしたり一緒に遊んだりする中で「ナナメの関係」を築くことができます。このような第三の居場所が大人にも子どもにも必要だと強く感じています。

活動のアピールポイント

子育てサロンぐるんぱの活動の全体を通しての１番のアピールポイントは「地域との繋がり」です。ワークショップの講師は地元で活動する専門家や、お母さんたち。夏休みの居場所では、大人だけではなく地域の高校生ボランティアに協力してもらったり、小学生も設営をしたり受付を担当したりと1人ひとりが出来ることを持ち寄って運営しています。地域の中で「誰かの役に立つ」という経験は大切な宝物になります。

活動していくうえでの課題、今後の展開

課題は大きく分けて、子どもたちへの周知と資金面です。現在はインスタグラム等で活動のお知らせをしています。今後は大村市内の小中学生のいる世帯へ広く周知できるようにしたいと考えています。また、これまでも助成金を活用して活動してきましたが、場所代などの資金面はこれからも大きな課題です。今後は、夏休みなどの長期休暇、そして今回立ち上げた放課後の子どもたちの居場所を継続的に運営していくことが目標です。

みんなの居場所ぐるんぱは「ながさきこども場所」として立ち上げた居場所ですが、この活動を継続していくことで地域の子どもたちだけでなく、そこに行けば誰かがいて楽しい時間を過ごせる、そして新しい出会いのある「みんなの居場所」になることを目指して活動を続けていきたいと思っています。この場所を「まちの子育て基地」として、地域全体が緩やかにつながり、みんなで見守る子育ての輪が広がりますように。

こどもの声

こどもの居場所には、こどもたちの素直な言葉や小さなつぶやきがあふれています。このページでは、こどもたちの声と、そこから生まれた活動者の方々の想いをご紹介します。

「ただいま！」

子どもたちがやってくると「おかえり!」と迎えます。すると自然に出てくる「ただいま」。家族ではない人からも「おかえり」「いってらっしゃい」「おはよう」など、自然な声かけが広がり、子どもたちをまち全体で見守る輪が広がるようにとの願いを込めて。

「泣いていい？ 泣きに来た！」

笑顔で言ってきたので、笑顔で「どうぞ!」と言うと。「うわー!!」と大声で泣きだしました。学校のこと、友達のこと、両親の喧嘩、我慢していたものが爆発しました。帰りは「すっきりした！」と言って帰りました。

「友達と一緒で楽しい！」

いつもは塾やスポーツクラブ等で忙しく過ごしている子どもが発したことばです。ここに来た時はみんなと一緒に宿題を済ませ、トランプ、ボードゲーム、長縄跳び、ドッジボールなど一人では出来ない遊びをして楽しく過ごしています。

「ちょっと、チャレンジしてみようかな」

少し臆病な面があり、周囲に「やってみない?」と誘われても断る姿をよく目にしていました。あるとき1学年上の子が「映画をつくりたい」と宣言し、シナリオを書いたり、動画編集の勉強をしている姿をじっと見ていたのですが、突然、意を決した表情で出た言葉。自分が得意なプラモデル作りの教室をやりたいとのこと。臆病というより、チャレンジできる何かを模索していたのかもしれません。

「またくるね」

継続参加や開催の継続を望む声が多く寄せられました。こども食堂が地域の中で“また来たくなる場所”として定着し、一時的な支援ではなく、安心して集える居場所として必要とされていることを強く感じています。

「ハロウィンが一番楽しい！」

仮装グッズを100円ショップ等で買い集め、お化けや魔女の仮装をして友達と一緒にろうそくを灯した家を回るのを楽しみにしています。お菓子を用意して待ち受ける家も来てくれることを楽しみにしています。

「おいしくな～れ♥」

おにぎりを握る時にみんなで唱える言葉です。「おいしくな~れ」の言葉に込めて握るふんわりおにぎりは好評です。また、「おいしくな～れ」の掛け声は、壁際で様子を見ていた子どもをそっと招き入れてくれる魔法の言葉でもあります。いつの間にか同じ時間を楽しみ、あたたかな一体感が生まれます。

「明日も来たい！」

子どもたちの声も励みになります。保護者の方が連れてくるというより、子どもたちの方から「ぐるんぱ行こう!」と言ってくれる場所にしたいと思っています。

「休憩しに来た」

高校受験の前日、電車に乗って遥々やって来ました。休憩にしては距離があるのですが、ここでの体験と関りの中で迷いながら自分がやりたいことを見つけて選んだ高校。気持ちの整理ができたようでした。

「自分で作ったピザ（ケーキ）がめっちゃおいしかった♥」

生地作りや火起こしなど、普段なかなか体験できない工程から取り組むことで、大きな達成感につながりました。また、アレルギー対応を行うことで初めて参加できた子どももおり、誰もが挑戦できる環境づくりの大切さを改めて感じました。

「絵本読んで！」

お母さんとお姉ちゃん、そして妹の赤ちゃんと一緒に遊びに来てくれた女の子。初めはお母さんのそばを離れなかったけど、気が付けば近くにいた他のお母さんと向かい合わせで何冊も絵本を読んでもらっていました。お絵かきもたくさんほめてもらって、とっても嬉しそうな表情。居合わせた他の大人にかわいがってもらって、ほめてもらえる体験は宝物。

「おかあさんにプレゼントができてうれしい♥」

ワークショップで作ったストラップをお母さんのために一生懸命作成して大切そうに握りしめて話にきてくれた子。
母と子の思いやりに触れてとても幸せでした。

「犬は、こう作るのよ」

クリスマスやお正月に折り紙を作るのですが、子どもたちが高齢者の方に犬や猫、サンタさんなどの折り方を自慢げに教えます。お年寄りの方は、大事そうに折り紙を持って帰られました。

「ここがあるから学校に行ける」

「不登校ではないけれど、ここがあるなら学校に行けなくなっても大丈夫。そう思えるから学校に行ける」と話した子がいました。この言葉を聞いたとき、私たちの活動が、子どもにとって“逃げ場”ではなく、“心の支え”として確かな存在になりつつあることを改めて実感しました。

「金曜日が楽しみ！」

いつもの放課後は祖母の家へ行き、母の迎えを待って帰宅しています。毎週金曜日は兄と一緒に「めだか」へ来て年上の子どもたちと楽しそうに過ごしています。はじめの頃はなかなか宿題が手につかなかった子どもが、みんなと一緒に教えてもらいながら宿題をするようになりました。

「お母さんに似てる？」「校長先生に似てる？」

5月の子ども食堂では「母の日」にちなんで顔型のクッキーを手作りしました。当日は日本語学校の生徒さんも参加し、出来上がりのクッキーをみて、おもわず子どもたちから出た声です。食べないで大事そうに持ち帰りました。

「他の学校の子と仲良くなれた！」

普段関わることのない他校の子どもたちと、ゲームや活動を通して自然に交流することができました。新しい友達ができたという声が多く聞かれ、交流の場としての価値を実感しました。

ながさき
こども場所

長崎県の「こども場所」づくり　充実に向けた取り組み

1.こども場所に関する相談窓口の設置

こどもの居場所や体験の機会を提供したいNPO等や企業の皆さま、活動する方々を支援したい皆さまからのご相談を受け付け、助言を行う窓口を設置しています。

長崎県
こども場所
相談センター

2.ながさきこども場所充実アクション

「ながさきこども場所充実アクション」の趣旨にご賛同いただき、長崎県が別に定める条件を遵守する団体・企業や個人の皆さまを「ながさきこども場所充実アクション宣言団体（以下、宣言団体という）」として取りまとめ、宣言団体相互の交流や情報共有、県民への広報などを行います。

ながさき
こども場所
充実アクション

3.長崎県こども未来応援基金の創設

こどもが夢や希望を持って健やかに成長できる社会を実現するため、「長崎県こども未来応援基金」を創設し、居場所の立ち上げや体験の機会の提供に対する財政支援を行っています。

長崎県こども未来応援基金

4.情報の発信

① ながさきこども場所ポータルサイト

県内各地で行われている様々な「こども場所」の活動をご紹介するとともに、「こども場所」の活動者からの相談対応や情報提供など、活動に役立つ情報をお届けします。

ながさきこども場所
ポータルサイト

② ながさきこども場所インスタグラム

長崎県の“こども場所”を紹介し、遊び・学び・ワクワク体験があるこどもたちにとって安心の場づくりを応援するインスタグラムです。

ながさき
こども場所
インスタグラム

③ こどもの居場所づくり事例集

「こども場所」に関する県内での取組事例をまとめた活動事例集を作成しています。県内の様々な団体の活動を紹介しています。

こどもの居場所
づくり事例集